

安達太良山・沼ノ平における地熱活動*

— 1998年6月～9月 —

Grothermal Activity in Numanotaira crater, Adataara Volcano

— June 1998 - September 1998 —

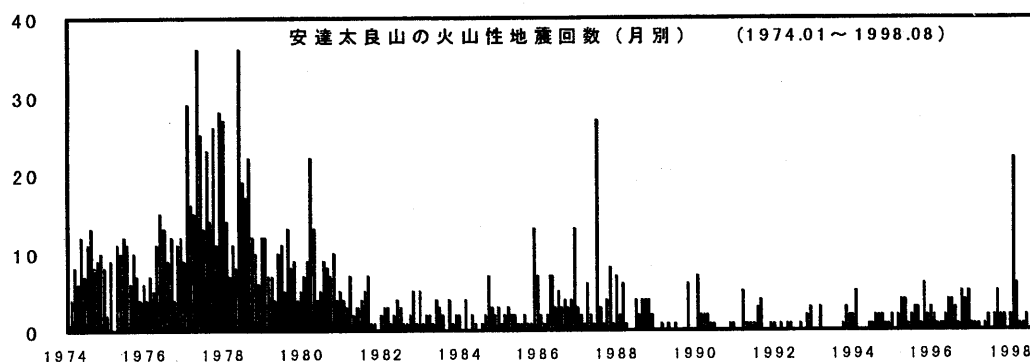
仙台管区气象台
福島地方气象台
気象庁火山課

Sendai District Meteorological Observatory, JMA
Fukushima Local Meteorological Observatory, JMA
Volcanological Division, JMA

安達太良山の活動状況については前号で1995年（平成7年）10月から1998年（平成10年）5月まで報告したので、今号では6月から9月にかけての状況を報告する。

安達太良山 A 点における月別地震回数を第1図に、日別微動回数を第2図に示す。地震回数は月1回程度と非常に低いレベルで推移した。火山性微動は観測されなかった。

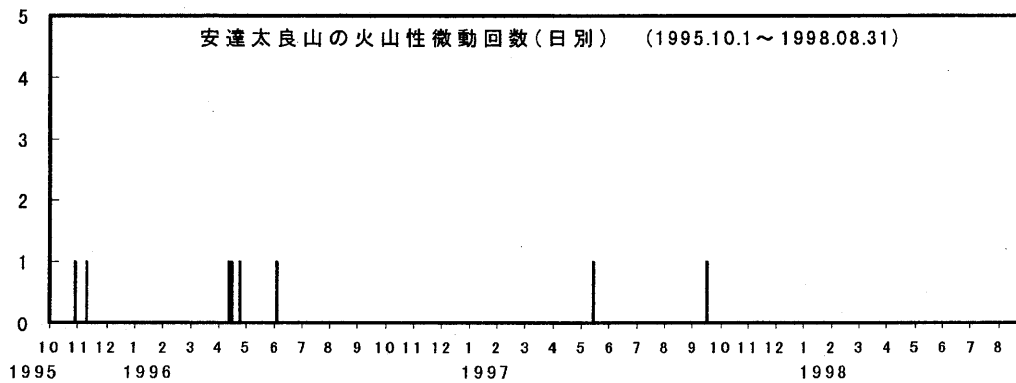
福島地方气象台が定期現地観測を7月14, 15, 27日および9月21, 29, 30日に、臨時現地観測を6月17日, 8月26日に実施した。9月の観測では、沼ノ平の噴気活動は引き続き活発で、南西部では噴気孔が増加した。大雨で土砂がえぐられ、噴気が勢いよく吹き出していた。中央部から南部にかけての噴気地熱地帯でも噴気がはっきり見えるようになり、噴気の高さは約20mになるときもあった。泥水の噴出箇所は活動していた所がこれまで3箇所だったが、9月の観測では沼ノ平北部の一番大きな所だけになり、泥の吹き上げは弱くなっていた。大雨によって流されてきた土砂に埋まった所もある。北部の噴気の高さは活発なもので約15mだった。北部の流水にこげ茶色の沈殿物が増えた。第3図に沼ノ平南西部の地中温度（深さ30cm）とH₂SとCO₂の比のグラフを示し、第4図に沼ノ平中央部の地中温度（深さ30cm）のグラフを示す。南西部の地中温度は1997年5月の観測において、また中央部の地中温度は1998年4月の観測において、それ以前と比較すると急激な温度上昇が観測され、その状態が継続している。H₂SとCO₂の比も1997年以降、それ以前と比較すると高い状態が続いている。



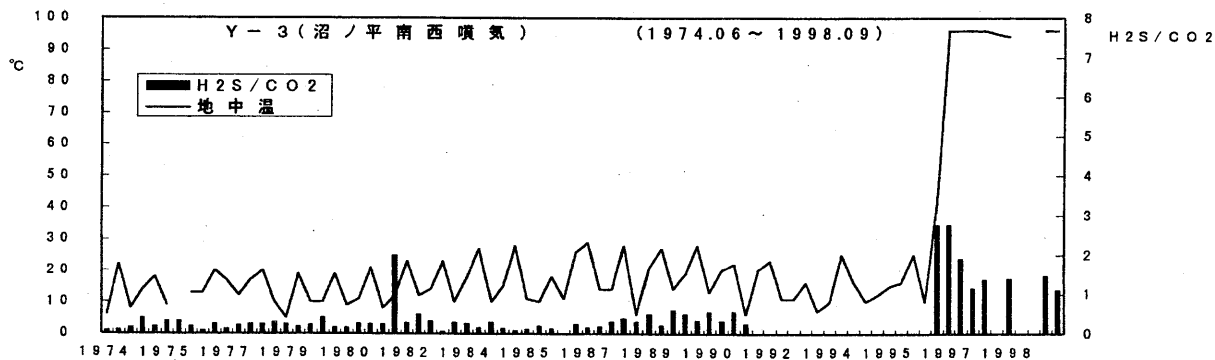
第1図 火山性地震月別回数 (A点: 1974年1月～1998年8月)

Fig. 1 Mmonthly number of volcanic earthquakes. (station A: 1974. 1 -1998. 8)

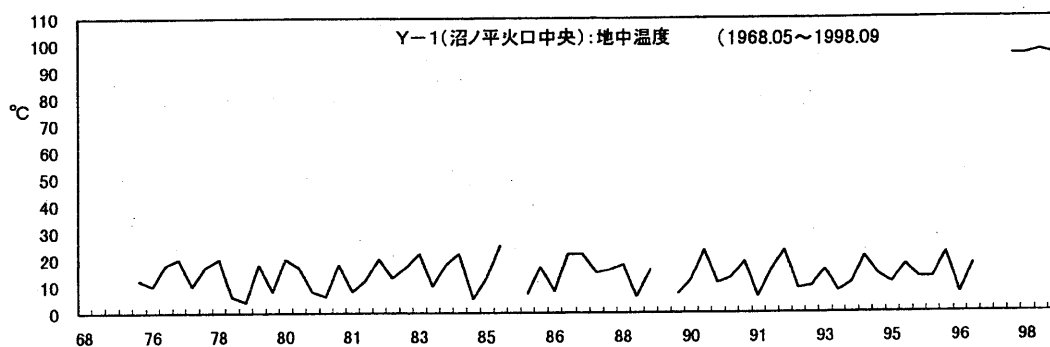
*Received 9 Feb., 1999



第2図 火山性微動日別回数 (A点: 1995年10月~1998年8月)
 Fig. 2 Daily number of volcanic tremors. (station A: 1995. 10-1998. 8)



第3図 沼ノ平南西部の地中温度(深さ30cm)およびH₂S/CO₂の変化(1974年6月~1998年9月)
 Fig. 3 The 30 cm depth temperature at the southwest of Numanotaira, and the variation of H₂S/CO₂ in period from June 1974 to September 1998.



第4図 沼ノ平中央部の地中温度(深さ30cm)(1968年5月~1998年9月)
 Fig. 4 The 30 cm depth temperature at the center of Numanotaira in period from May 1968 to September 1998.